

色指定 2色 スミ CF: 0071

色で表示している文字・ケイ線等はアタリです。印刷しないでください。

入力倍率：100%

取説 表1・表4

297×420mm

2007年10月9日作成（新様式第1版）

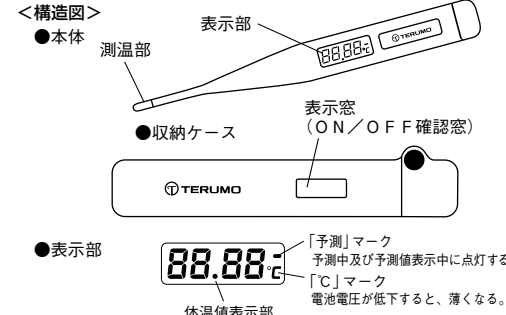
医療機器認証番号 219ABBZX00207

機械器具 16 体温計
管理 電子体温計（JMDNコード：14032010）

テルモ電子体温計C502

【警告】
<使用方法>
・子供だけで使わないでください。
【本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをすることがあります。】

【形状・構造及び原理等】



外観寸法：長さ126mm×幅16mm×厚さ10mm
質量：約10g
付属品：添付文書、品質保証書、EMC技術資料、基礎体温の知識、収納ケース（電源ON/OFF機能付）

<原理>

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約2分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する。検温中は、約50～120秒（平均90秒）の時間に予測が成立したことを知らせるブザーが鳴り、検温をそのまま続けると約5分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

【機器の分類】

電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類：BF形装着部
水の有害な浸入に対する保護の程度による分類：IPX7

【電気的定格】

電源：リチウム電池（CR1025）1個（交換不可）
電圧：DC3.0V
消費電力：約0.3mW

本品はEMC規格IEC 60601-1-2：2001に適合している。
CISPRグループ分類：グループ1 クラス分類：クラスB

【付帯機能】

初期動作確認機能（告知機能）：電源ON時に所定の表示を行い検温可能を告知する。

予測成立ブザー機能（告知機能）：予測成立時にブザーが鳴動する。

定刻ブザー機能（告知機能）：検温開始から約5分後にブザーが鳴動する。

エラー表示機能（告知機能）：検温不良時、ブザーが鳴動し、表示部に「E」を表示する。

電源入切機能（電源制御機能）：収納ケースへの出し入れで電源がON/OFFする。

【使用目的、効能又は効果】

<使用目的>

本品は測温部を部位に接触させて、口腔（舌下）の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示をすること。

【品目仕様等】

【特性・性能又は機能に関する規格】

・最高温度保持機能：実測表示に切替え後は、実測した最高の温度値を保持し、検温を終了しても電源がOFFされるまで表示を維持する

・デジタル表示：4桁
・最大許容誤差：35.00℃以上～38.00℃以下：±0.05℃以内（温度指示精度）：32.00℃以上～34.99℃以下及び38.01℃以上～42.00℃以下：±0.1℃以内（標準温度計に対して）

・電源電圧：「℃」マークの表示が薄くなる直前の電圧における温度表示値が±0.1℃以内

・防 浸：試験前後の温度表示値の差が±0.04℃以内
・測 温 範 囲：32.00～42.00℃
・最小表示単位：0.01℃
・測定範囲外告知（オーバー表示機能）：測定温度が42.00℃を超えると表示部に「0」を表示し、測定範囲外を告知する

【その他の仕様】

種 類：婦人用 測温部一体形 防浸形

測温方式：予測式（予測検温・実測検温兼用）

検温部位：口中

検温時間：予測検温時間 約50～120秒（平均90秒）

測定開始後、約2分30秒後実測表示に切替

実測検温時間 約5分

使用条件：周囲温度 10～40℃ 相対湿度 30～85%RH
（ただし、結露なきこと）

なるほど 口中検温

ここが大切、検温のポイント！

ポイント1 朝、目覚めたら、そのまま布団の中で測る（基礎体温の場合）
起きあがらずに、安静の状態です。検温前に飲食をしない。なるべく毎朝同じ時間帯に。

ポイント2 舌下中央にあてて測る
舌下奥の中央にあるすじにそって、体温計の先端（測温部）を軽く押し込みます。

ポイント3 スピード検温なら
スピード検温（予測検温）
検温を始めて平均90秒後に1回目のブザーが鳴ります。このときに取り出すと、体温（平衡温）を予測した結果が表示されます。
平均90秒

実測検温なら 5分
最初のブザーが鳴っても、体温計を口に入れたまま検温を続けると、検温を始めて約5分後に2回目のブザーが鳴ります。このときの表示は実際に5分間測定した温度です。（より厳密な体温測定が可能です。）

ポイント4 毎朝測って、結果をグラフに記録しましょう（基礎体温の場合）
別紙の「基礎体温の知識」（裏面）に基礎体温表のグラフ用紙が印刷されています。コピーしてご利用ください。就寝前、枕元に体温計、基礎体温表（グラフ）、筆記具を用意しておくとういでしょう。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

<貯蔵・保管方法>

・暖房器具のそば、車の中、日光のあたる場所、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管してください。

保管条件：周囲温度 -10～50℃ 相対湿度 30～95%RH
（ただし、結露なきこと）

【保管上の注意】

・日光や紫外線等の強い光があたる場所に保管したり、長時間放置しないでください。[外装の変色や劣化が発生することがあります。]

・収納ケースに磁気テープ、磁気カード、フロッピーディスク等を近づけないでください。[内蔵されている磁石の影響で磁気記録された内容が損なわれる原因となります。]

・必ず収納ケースに取めて保管してください。[収納ケースに取めて保管しないと電源が切れずに電池の寿命が短くなります。なお、本品は電池が交換できない構造です。]

・収納ケースラベルをはがさないでください。[内蔵されている磁石が外れ、電源が切れなくなることがあります。]

・複数の収納ケースを重ねて保管しないでください。[電源が切れなくなることがあります。]

【電池寿命について】

・1日3回の予測検温で約5年間ご使用になれます。

・電池が消耗してくると表示部の「℃」マークが薄くなり、検温できなくなります。

・電池は交換できない構造になっていますので、電池が切れた場合は新しい体温計をお買い求めください。体温計を廃棄する際は、各自自治体のルールに従って適切に廃棄してください。

【保守・点検に係る事項】

【保守・点検上の注意】

・しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動（電源が入ること、「℃」マークの表示が薄くなっていないことなど）を確認してから使用してください。

・本体と収納ケースを洗う際は、水で洗ってください。収納ケースに取める際、乾いた布等で水気を拭き取ってください。

・クレンジング剤は使用しないでください。[故障の原因となります。]

・シンナー等の有機溶剤、ポビドンヨードでは拭かないでください。使用可能な消毒液例は以下のとおりです。なお、希釈率はその製品の添付文書に従ってください。

グルコン酸クロルヘキシジン/塩化ベンザルコニウム

[有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損、変色や故障の原因となります。ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがあります。]

・水、消毒液等に長時間浸さないでください。水、消毒液等に浸す場合は、必要な時間だけ行ってください。[本品は防浸構造ですが、長時間の浸漬は故障の原因となります。消毒に必要な時間については消毒液の添付文書を参照ください。]

・ドライヤー等を使用して乾燥させないでください。[本品が破損や故障する可能性があります。]

・熱湯消毒しないでください。[故障の原因となります。]

・超音波洗浄はしないでください。[故障の原因となります。]

【包装】

・1個/箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者：テルモ株式会社

住 所：東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目4番1号

電 話 番 号：0120-00-8178 テルモ・コールセンター

(9:00～17:00 ただし土・日・祝日を除く)

製 造 業 者：テルモ株式会社



ET_219ABBZX00207_500_01

【操作方法又は使用方法等】

【検温のしかた】

1 **収納ケースから取り出す**
 収納ケースから取り出すと自動的に電源が入る。

2 **舌下中央のすじの横に体温計の先端(測温部)をあてる**
 舌下奥の中央にあるすじにそって、体温計の先端(測温部)を軽く押し込んでください。(この部分が、口中でもいちばん温度の安定した場所です。)

3 **舌を下げ、口を軽く閉じる**
 検温中は会話や口での呼吸等、口を開けないでください。体温計が動かないように、指で支えてください。また、体を動かさないでください。

4 **ブザーを聞いてから体温計を取り出す**

5 **検温値を記録する(基礎体温の場合)**

6 **収納ケースに収める**
 水気を拭き取ってから収納ケースに収めてください。収納ケースに収めると内蔵の磁石により電源が切れます。収納ケースの表示窓から電源が切れていることを確認できます。

予測検温のしかた

1. 収納ケースから取り出します。
電源が入り、表示が下記のように切り替わります。

 約1秒間 約2秒間 約2秒間 検温開始OK
 2. 舌下中央のすじの横に体温計の先端(測温部)をあてます。
舌下奥の中央にあるすじにそって、体温計の先端(測温部)を軽く押し込んでください。(この部分が、口中でもいちばん温度の安定した場所です。)
 3. 舌を下げ、口を軽く閉じます。
 - ・検温中は会話や口での呼吸等、口を開けないでください。[外気で口中内が冷え、正確な検温ができないことがあります。]
 - ・検温中は体温計が動かないように、指で支えてください。また、体を動かさないでください。[体温計の測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがあります。]
 4. 最初のブザーを聞いてから体温計を取り出します。
(約50～120秒(平均90秒)で測れ、「予測」マークが点灯している) 「予測」マークが点灯
- ※正しい検温方法で検温しなかった場合、正しい予測結果が得られないことがあります。
 ・取り出してから表示値が変化したときは、変化後の(固定した)値を読み取ってください。[予測演算が終了するまで若干の時間がかかるためです。]
 ・数値を読み取る際、体温計の先端(測温部)に触れないでください。[表示が変化することがあります。]
 ・表示が点滅するときは、最初から検温をやりなおしてください。

くり返し検温するときは：
 ・少し時間をおくなど体温計の先端(測温部)を冷ましてから検温してください。[そのまま測ると、検温値が高くなる場合があります。]
 ・0℃が表示されている場合は、いったん収納ケースに戻し、電源を切ってから検温を始めてください。

実測検温のしかた

より厳密な体温を測定するには、実測検温を行ってください。上記の「予測検温のしかた」の4で、ブザーが鳴っても取り出さずにそのまま検温を続けます。
 「予測」マークは消灯
 検温開始から約5分後に再びブザーが鳴ったら、実測検温終了です。

<使用方法に関連する使用上の注意>

故障が疑われる場合には、まず以下の項目について確認をお願いします。それでも問題があるときは、別紙の「保証規定」をお読みのうえアフターサービスをお申し付けください。

現象	原因	処置
検温するたびに、温度の数値が違う。	体温は、時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しています。また個人差、年齢等でも違いが見られます。自分の正しい平熱をあらかじめ検温しておいてください。	
(右記の場合はまれに低めに表示される)	体温計の測温部が正しい位置にあてられていない。 口を開けていたため口中の温度が低い。 体温計が冷えている。 顔に冷風があたっていたため、口中の温度が低い。	[検温のしかた]の項に従い、再度検温してください。 手等で体温計全体を温めてから再度検温してください。 顔に冷風のあたらない場所で再度検温してください。
他の体温計と比較して、平熱が高めに表示される。	他の体温計が水銀体温計等の実測式であり、検温時間が不十分であった。	そのままご使用ください。[「正確な検温って何?」「実測検温って何?」の項をご覧ください。]
いったん高めの表示が出て、下がってからブザーが鳴る。	予測演算の途中のため。(正常な動作です)	表示が固定されてから、数値を読み取ってください。
口中から取り出したとき表示が変わる。	取り出しても予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。(正常な動作です)	表示が固定されてから、数値を読み取ってください。
ブザーが止まらない。	静電気による誤作動。	いったん収納ケースに戻してから、再度検温してください。
初期表示(体温計を収納ケースから取り出したときの表示)が正常でない。	測温部に指等が触れて、検温が再スタートした。	測温部に指等が触れないようにしてください。
表示が点滅する。	1回目のブザーが鳴る前に、体温計の位置がずれた。	[検温のしかた]の項に従い、再度検温してください。
Eが表示される。	1回目のブザーが鳴る前に、体温計が外れた。	[検温のしかた]の項に従い、再度検温してください。
5分経過時のブザーが鳴らない。	1回目のブザーが鳴った後、体温計の位置がずれた。	
0が表示される。	検温値が42℃を超えている。	人の体温測定以外に使用しないでください。再度検温する際はいったん収納ケースに戻してからにしてください。
「予測」マークが消えている。	検温開始から2分30秒以上経過し、実測値を表示している。	予測検温する場合は、再度検温してください。
再検温の際、ブザーが鳴らず、前回の表示が残っている。	体温計の測温部の温度が高いため測定が開始されません。	少し時間をおくなど体温計の測温部を冷ましてから再度検温してください。
88.88℃の表示がずっと続いている。(なかなか温度を表示しない/なかなかブザーが鳴らない)	体温計測温部の温度が低い。外気温が低い。 体温計測温部の温度が高い。外気温が高い。	手等で体温計全体を温めて表示があらわれるのを確認してから、再度検温してください。 少し時間をおくなど体温計の測温部を冷ましてから再度検温してください。
℃が薄くなった。	電池が消耗している。	新しい体温計をお買い求めください。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- ・人の体温測定以外に使用しないでください。[けがの可能性がります。誤作動や故障の原因となります。]
- ・測定結果の自己診断、治療は行わないでください。[自己診断、治療は危険です。]
- ・添付文書を確認の上、使用してください。
- ・口中以外で使用しないでください。[けがの可能性がります。正確な検温ができません。]
- ・使用の前に、外観に破損等がないことを確認し、異常が認められた場合は使用しないでください。[検温値の異常や、けがの可能性がります。]
- ・破損したものは使用しないでください。[検温値の異常や、けがの可能性がります。]
- ・強くかまない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないでください。[破損や故障の原因となります。]

- ・強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないでください。[誤作動や故障の原因となります。]
- ・分解、修理、改造は行わないでください。[破損や故障の原因となります。]

正確な検温って何?
 正確な体温とは、脳や内臓等、変化しにくい体の内部の温度のことをいいます。口の中は、ある程度温まっているように思えますが、呼吸等で少し冷えています。口を閉じてから5分以上経つと、もうこれ以上は、体温計の表示が上がらないという温度に達します。このようにして完全に温まったときの温度を「平衡温」といいます。正確な体温を知るためには、この「平衡温」を測定する必要があります。

「平衡温」に達するまでの温度変化 5分

なぜ、スピード検温だと、平均90秒で測れるの?
 テルモの予測式体温計は、多数の体温測定データを内蔵のマイクロコンピュータに記憶しています。このため、測定開始から数十秒間の口中の温まり方を細かく分析、演算して、平均90秒で「平衡温」を予測して表示しています。

テルモの予測式体温計は病院でも広く使われているんだよ!

実測検温って何?
 体温計を口中に約5分間入れて測り続けたときの温度(実測上の「平衡温」)をそのまま表示します。